



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	東京学芸大学附属特別支援学校における金融教育の取り組みVI (第2部 特別研究プロジェクト) (fulltext)
Author(s)	小金井,俊夫; 吉澤,洋人; 小島,啓治; 山内,裕史; 富田,奈緒子; 川井,優子; 山本,由佳; 松本,直巳; 松本,晃
Citation	東京学芸大学附属特別支援学校研究紀要(57): 115-120
Issue Date	2013-05
URL	http://hdl.handle.net/2309/135677
Publisher	東京学芸大学附属特別支援学校
Rights	

東京学芸大学附属特別支援学校における

金融教育の取り組みVI

東京学芸大学附属特別支援学校 金融教育共同研究プロジェクト

小金井俊夫 吉澤洋人 小島啓治 山内裕史 富田奈緒子

川井優子 山本由佳 松本直巳 松本晃

I はじめに

東京学芸大学附属特別支援学校は、2007年度より東京学芸大学・みずほフィナンシャルグループ金融教育共同研究プロジェクトに参加し、「特別支援教育における金融教育」について研究、実践的検討を行っている。これまでの研究では、「特別支援教育における金融教育」を高等部の中・軽度生徒を対象とした「生活とお金に関わる学習内容」ととらえ、卒業後の「くらしづくり」に結びつくものとしてその学習内容等を検討・実践してきた。その中では、学習内容の検討及び試案の作成、特別支援用のテキストの作成や授業実践を行ってきた。これらをふまえ、今年度は、さらに中学部段階での「金融教育」を検討することとした。

II 研究の課題

研究の課題を次のように設定した。

- ① 中学部段階での「金融教育」の内容的検討
- ② 授業づくり

III 中学部段階での金融教育の学習内容について

1. 中学部段階での金融教育のとらえ方

これまで高等部段階での「金融教育」を「生活とお金に関わる学習内容」ととらえてきた。ここでは、「金融教育の学習内容」は「生徒の現在の知識を広げるものであり、かつ、生徒の生活現実に即した、また、生徒が生活の中で実際に活動することを前提とした具体的なもので組織する」ということを原則に検討してきた。中学部段階での学習内容の考え方も基本的に変わるものではない。ただ、高等部段階の学習内容に比べ、より基礎的な内容が盛り込まれていくものと考えている。その点をふまえて作成したものが資料にある中学部段階での学習内容一覧である。対象は中学部段階の軽・中度の生徒である。

2. 中学部段階での「金融教育」の学習内容の特徴

知的障害を主たる対象とする特別支援学校中学部は、特別支援学校の小学部及び小学校の特別支援学級の卒業生で組織され、生徒の実態は様々である。また、その障害の特性と

して、年齢以上に生徒の能力や学習の達成度が幅広い。そのため、学習を組織する際には個々の生徒の力に応じた学習を考えなければならない。しかし一方で、当該年齢段階にふさわしい学習内容を用意することも重要である。今回検討した中学部段階での学習内容は、前述の前提とこれらの状況を加味して作成している。また、知的障害の特性として、一回の授業ですべてきちんと学習内容を理解し生活の中で使用できるわけではなく、必要に応じて同様の内容を繰り返し学習することも必要である。そのため今回の学習内容は、高等部に進学してからも引き続き同様のテーマで継続学習をすることを前提として作成した。

また、中学部段階では、小学部・小学校に引き続き金銭に関する学習が数学や生活単元学習の中で取り扱われている。金種の判別やお金の数え方、お金の計算、お金の概算などの学習がそれにあたる。今回検討した「金融教育」の学習内容は、目的的にはこれらの学習と同様のものともなるが、内容的には具体的・実務的内容というよりもむしろ「将来のくらしづくりに向けた知識とその生活化」の学習として検討したものである。

これらの学習を対象と考えられる生徒に、中学部三年間でじっくり行っておくことが、高等部進学後にさらに生徒が自分の「くらしづくり」を考えることにつながられることになるものとする。

IV 授業づくり

これまで検討してきた「中学部段階の学習内容」を元に、今年度中学部2年生を対象に計3回の授業を計画した。以下はその報告である。

1. 題材について

本授業の対象生徒は、中学2年生の男子1名女子2名である。昨年より、生活の中で金銭に関わる経験を増やすために、毎月定額のおこづかいをもらい、お小遣帳をつける学習を進めてきた。生徒は、おこづかいをもらっても使い方がわからずお金がたまる一方であったり、計画的に使えず友だちへのプレゼントを毎月買おうとしたりしていた。また、計画的にお金が使えない生徒に「お金がなくなったらどうするの?」という問いをすると、「お金でお金を買えばいい。」と答えたりした。このことから、生徒たちは生活の中でのお金の使い方を理解していないことや、社会の中でのお金の流れがわかっていないことが明らかになった。

そこで、授業では生徒たちの実際の生活で必要になり、生徒の生活を豊かにするための内容を「くらしとお金」と定義づけた。「くらしとお金」の学習を通して、

① 自分のくらしのなかにお金が大きくかかっていることに気づくこと

② 1年後に実現したい生活を考え、計画的にお金を使える力をつけること

の2点を目指したいと考えた。身近なお金に関する経験を生徒と一緒に確認し、自分のお金についての知識を身につけることで、自分たちの生活とお金の関連性についてより多くの気づきがあると考えた。本単元では、生徒が、今取り組んでいるおこづかいについて再認識し、自分とお金のかかわりやお金のかかわりを気づかせたい。また、近い将来に対しての自己実現ができるように計画をたて、生活の主体者は自分であることを意識さ

せたい。

2. 授業計画

「暮らしとお金」(3時間)

回数	実施日	学習活動	ねらい	指導内容(金融教育)
1	9月12日 (本時)	わたしの 暮らしとお金	身近な生活のなかにお金 がかかっていることに 気づく	暮らしの中のお金 > 自分とお金のかかわ りの再認識
2	9月26日	収入と支出	「収入」や「支出」の仕 組みについて、身近な買 い物を取り上げて理解す る。	暮らしの中のお金 > 自分の暮らしと家族 の収入
3	10月29日	お金を貯めて 物を買おう	楽しみなや欲しいものを 買うことが実現するよう に計画する力を育てる。	生活設計

3. 1回目の授業について

1) 授業の目標

- 自分の好きなこと(もの)について考える。
- 自分の好きなこと(もの)に関わるもの(人)について考える。
- 現在の自分のお小遣いについて、再認識する。

2) 授業の展開

学習活動	指導内容	留意点
・挨拶をする。	○授業の始まりを意識する。	●
・自分の好きなこと (もの)を発表す る。	○自分が好きな食べ物、キャラクタ ー、活動等について考える。	●発表を板書する。顔 写真を貼付し、だれの 発表かを明確にする。
・ワークシートに記 入する。	○好きなこと(もの)についてまとめ る。	

<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなこと（もの）に関わるもの（人）について考える。 ・好きなこと（もの）に関わるもの（人）を選択肢から選び、ワークシートに貼付する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○好きなこと（もの）には、人や物（場所）、「お金」が関わっていることに気づく。 ○好きなこと（もの）には、いろいろなもの（人）が関わっていることを知り、自分生活に置き換えて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●発表を板書する。生徒の意見を肯定的に捉える。イラストの選択肢を複数用意する。あまり必要ではない選択肢も用意する。 ●生徒の意見を肯定的に捉える。選択が難しい場合には、助言する。
<ul style="list-style-type: none"> ・小遣いについての質問に答える。（再認識する。） ・小遣いについてまとめる。 ・挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○質問に答えることで、自分の小遣いについて再認識する。（気づく、意識化する。） ○自分の小遣いについて再認識する。 ○授業の終わりを意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●アンケート結果を基に発問する。答えることが難しい場合には、アンケートを基に助言する。 ●

V まとめと今後の課題

以上、今年度は中学部段階における「金融教育」の指導内容を検討した。特別支援教育において、「金融教育」という名称で学習できる内容をどの範囲でまとめていくことができるか、そしてそれらを実践化していくためにはどうすればよいかという点はとても重要な課題である。これまで、高等部の中・軽度の生徒への学習内容としてまとめてきたものを、今回中学部段階ではどうかということを検討してきたが、高等部への継続という点で一定の内容を中学部段階から指導していくことはとても有効なことと考えることができた。内容的には金融教育なのか、金銭の教育なのか、数学なのか、生活指導の一部なのか等いろいろと考えることができるだろうが、少なくとも、生徒の「くらし作り」のための学習という方向性をもって授業を計画することはとても重要なのではないだろうか。「自分」のくらしを自ら創造していく主体者を育成するためにどのように授業を考えていくか、この点から今後も「金融教育」を検討していきたいと考える。

最後に今後の課題であるが、今年度検討した「中学部段階での学習内容」とこれまで検討してきた「高等部段階での学習内容」にさらに検討を加え、その整合性、継続性、連続性等を検討し、特別支援教育における「金融教育の学習内容」について一定の結論を出していくことが必要である。また、それとともに、それらを元にした授業展開を重ね、教材や指導案集等を作っていくことを目指したいと考えている。

資料 中学部段階での「金融教育」の学習内容

学習内容	ね ら い	授業展開例	授業展開の具体的項目
くらしの中のお金	・自分とお金の関わりやお金の使い方を確認することで、自分とお金の関わりを確認する	金銭の使用について ・わたしのお金の使い方	・私のお金の使い方 ・くらしとお金のアンケート
	・生活の中や社会の中でのお金の役割を考え、気づく	お金の役割について ・お金ってなんだろう	・お金がなかったら ・お金はなんで使えるの
	・自分のくらしが家族の収入によって成り立っていることがわかり、将来の生活につなげて考えることができる	収入について ・お金はどこからやってくる	・おこづかいはだれにもらう ・お米はだれが買ってくる ・おかねは・・・
金銭管理・計画的な金銭の使用	・生活に関わる金銭的事象に関して金銭の使用に関する計画の立て方や上手なお金の使い方を身につける ・金銭を計画的に使うことの大切さを知り、行動できる	上手にお金を使おう ・こづかいの使い方	・こづかいをどう使うかな
		上手にお金を使おう ・買い物しよう	・買い物してるかな ・上手な買い物のしかたとは
		上手にお金を使おう ・こづかい帳をつけよう	・こづかい帳ってなに ・こづかい帳をつけてみよう
		上手にお金を使おう ・高いものを買いたいときは	・高いものでほしいもの ・お金を貯めよう
金融機関や社会資源の利用	・金融機関の役割や利用方法を知る ・金融機関等の利用の際に気を付けなければならないことがわかる	銀行に行こう ・銀行の役割	・銀行ってなに ・銀行でなにができる ・銀行を利用するには
		銀行に行こう ・銀行を使うときの注意	・銀行に行ってみよう ・預金に関わるいろいろなことば ・銀行を使う時の注意
生活設計	・自分の今、あるいは今までの生活を振り返り、これからの進路を考えることができる。 ・将来の自分を創造し、将来の生活について考えることができる。	未来のわたしを考えよう ・今のわたし、将来のわたし	・今のわたしはどんな人暮らし、楽しみ ・将来のわたしを考えよう
		未来のわたしを考えよう ・未来のわたしを考えよう	・未来のわたしはどんな人 ・将来わたしはこうなりたい
		未来のわたしを考えよう ・自分のしたい将来のくらし	・将来のわたしの仕事、くらし、楽しみ
危機回避、消費者教育	・プリペイドカードやクレジットカード、その他の新しいお金についての知識や、適切な使い方がわかる ・キャッチセールス等お	安心なくらし ・個人情報ってなんだろう	・安心なくらしってなに ・個人情報について ・個人情報をどう守る
		安心なくらし ・暗証番号やキャッシュカードの注意	・暗証番号知っている ・暗証番号やキャッシュカードの注意

	金に関する危険についての知識を持ち、危機回避の方法がわかる	安心なくらし ・携帯電話やインターネットの注意	・わたしの携帯の使い方 ・携帯やインターネットの注意
		安心なくらし ・お金の危険	・お金はなにが危険なの ・お金について注意すること
まとめ ぐらしを 考えよう	・自分のぐらしとお金の 関わりについて学習し たことから再確認する	生活の中のお金	・ぐらしの中での お金の関わり ・もっとお金と 上手につきあうには